

平成 23 年度  
広島市教育センター

## 思考力の芽生えを培うための 教師の援助に関する研究 — 「遊びこむ」ことに視点を当てた保育の振り返りを通して—

広島市立温品幼稚園教諭

上 松 由 美 子

### 研究の要約

幼稚園教育要領改訂により、幼稚園の目標「環境」において「思考力の芽生え」を培うことが新たに挙げられた。幼稚園教育の中では、人間として生きていくための基礎を培うために大切なことの一つである「思考力の芽生え」を培うような探究的な実践が重要となってくる。

そこで、「様々な素材を用いた製作活動・構成遊び」を題材にした実践保育について、「遊びこむ」ことに視点を当てて振り返ることを通して、思考力の芽生えを培うための教師の援助の在り方を探っていくこととした。

その結果、「遊びこむ」ことと「思考力の芽生え」の関係を明らかにすることができ、思考力の芽生えを培うための教師の援助の在り方を具体的に表し、整理することができた。

キーワード：思考力の芽生え，遊びこむ，夢中度  
思考力の芽生えを培うための教師の援助



## I 問題の所在

平成18年の教育基本法改正に対応して、学校教育法二三条【保育の目標】三項において、「思考力の芽生え」を養うことが新たに挙げられている。また、『幼稚園教育要領解説』の領域「環境」〔内容の取り扱い〕（1）でも、「思考力」のことについて

環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。

特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。

と示され、幼稚園教育の中で人間として生きていくための基礎を培うために大切なことの一つとして「思考力の芽生え」が挙げられている。

以上のことを踏まえ、学校教育の始まりである幼稚園教育においてはぐくむべきことは何かと自分なりに考え「自ら考え、行動する力」を意識して日々、実践保育を行ってきた。しかし、自己の保育を振り返ると、周囲の様々な環境に触れて意欲的にかかわったり、自分もった疑問をもとに試行錯誤を繰り返したりといった思考力の芽生えを培うような探究的な実践となっていない。

『幼稚園教育要領解説』で「幼児は、活動に没頭（没入）する中で思考を巡らせる」と述べられている。また、秋田(2009)は、「遊びこめる子どもが学びこめる子ども、主体的に探求できる力の礎になる」と述べ、「遊びこむ」を「没入している状態」としている。このことから、幼児が「遊びこめる」ような援助を行うことが、幼児の思考力の芽生えを培うことにつながると考えた。

そこで本研究では、「遊びこむ」ことに視点を当てて保育を振り返り、思考力の芽生えを培うための教師の援助の在り方について探っていくこととした。

## II 研究の目的

様々な素材を用いた製作活動・構成遊びの実践保育を対象に「遊びこむ」ことということに視点を当てて保育を振り返ることで、次の2点を明らかにする。

- ① 「遊びこむ」と「思考力の芽生え」の関係を探る。
- ② それに基づいて、思考力の芽生えを培うための教師の援助の在り方を考察する。

## III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 検証保育の計画と実施
- 3 検証保育の分析と考察

## IV 研究の内容

### 1 研究主題に関する基礎的研究

#### (1) 「思考力の芽生え」について

##### ア 「思考力の芽生え」とは

『幼稚園教育要領解説』では、「思考力」について「他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ち」と示している。また、無藤(2011)は、「思考力の芽生え」について「環境について理解しようとする、わかろうとする、考えようとする意欲」と述べている。

そこで、本研究では「思考力の芽生え」を「自ら考えようとする気持ち」と考えた。

##### イ 「思考力の芽生えが培われる過程」とは

『幼児期から児童期への教育』<sup>3)</sup>の中で、「学びの過程」について次のように述べている。

幼児は、諸感覚を通して新たなことに気付き疑問をもち、「こんなふうにしてみたい」という思いをもつ。そして、その幼児なりに考え、試しかかわることで納得し満足感を得る。

また、「『なぜだろう』  
 と思ひ対象とかかわる、  
 いろいろに試す、確かめ  
 る、納得して自分の世界  
 に取り入れるという行為  
 の繰り返しの中で、幼児  
 の世界は広がり、思考力  
 が育つ」<sup>3)</sup>と述べられて  
 いる。これらを整理する  
 と、本研究では「思考力  
 の芽生えが培われる過程」  
 が図1のようになり、こ  
 のサイクルの中で思考力  
 の芽生えが培われると考  
 えた。

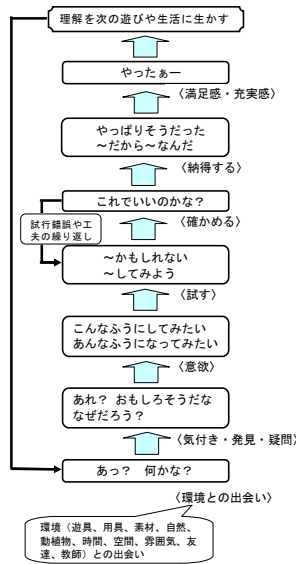


図1 「思考力の芽生え  
 が培われる過程」

ウ 「思考力の芽生え」を見取る視点とは

上記した図1「思考力の芽生えが培われる過程」の一一一には、幼児が思考を巡らせるであろう具体的な姿があると考え、『幼稚園教育要領解説』と『幼児期から児童期への教育』を参考にして「思考力の芽生えの見取り表」(表1)を作成した。

表1 「思考力の芽生えの見取り表」

思考力の芽生えが培われる過程	幼児の具体的な姿
理解を次の遊びや生活に生かす	・体験したことをさらに違う形や場面で活用しようとする
やったあー 充実感・満足感	・自分のイメージを様々な表現し、友達と言葉を交わして遊ぶ楽しさを感じる ・繰り返して遊ぶ中で、自分なりに納得し、充実感や満足感を感じる
やっぱりそうだった ~だから~なんだ 納得する	・「やっぱりそうだった」「~だから~なんだ」と納得する ・対象の性質や仕組みに気づいて、自分なりに使いこなす ・何度も何度も繰り返す中で疑問が解決され、また新たな疑問が生じたり他のおもしろさを発見したりする
これでいいのかな? 確かめる	・自分なりの意図をもって試したり確かめたりする ・新たな発見をしたり、どうすればもっと面白くなるかを考えたりする ・身近にある物や道具、用具などを使って試したり確かめたり、工夫したりする ・自分なりのこだわりをもって繰り返し試してみたり変化させたりして遊び続ける ・友達と一緒に遊ぶために一緒に考えていく ・友達と一緒に遊びを実現するために一緒に考えていく ・幼児自身がこだわりや楽しみを見つけ、友達と一緒に遊びをつくり出す ・友達と一緒に気づいた遊びを繰り返しながら、自分たちで遊びのルールを作り出したり、もっと面白くなるように工夫したり変化させたりする ・素材の多様な見立てやかわりを楽しむ ・物や道具、用具などの特性を探り当て、その物や道具、用具などに合った工夫をする ・うまくできない経験から新たな思いが生まれ、さらに工夫し、自分の予想や発想を実現する ・友達や友達と一緒に遊ぶ楽しさや面白さをもっと味わいたいと思ったりする ・教師や友達の姿から、自分も同じようにやってみようと思ったりする ・自分のやりたいたいことを見つけて「~かもしれない」「~してみよう」と自分なりに考えた
~かもしれない ~してみよう 試す	・活動する中で遊びのイメージがふくらみ「こうしたい」という意図や目的をもつ ・自分なりのイメージを浮かべ、想像力を巡らせる
こんなふうにしてみたい あんなふうになってみたい 意欲	・身近な動物や植物に興味をもつて探る ・環境とかかわる中で、気づいたり発見したり疑問をもったりする ・周囲の環境に様々な意味を見だし、様々なかわり方を発見する
あれ? おもしろそうだな なぜだろう? 気付き・発見・疑問	・遊具や用具、素材、自然、動物や植物と出会う ・友達や教師と触れ合う
あっ? 何かな? 環境との出会い	

(2) 「遊びこむ」について

秋田(前掲)は、「遊びこむ」について、次のように述べている<sup>4)</sup>。

- ① 没入している状態
- ② 子どもたちならでの発想によって遊びが展開継続している過程にある状態
- ③ 遊びの素材を使いこなし、わが物としていく状況

そこで本実践保育では、子どもが「今、ここ」で遊びこんでいるかを見るための尺度として「保育プロセスの質」研究プロジェクト(2009)が示している「子どもがどれだけ活動に没頭(没入)しているかを見る視点」<sup>5)</sup>である「夢中度」を用いることとする。「夢中度」の評定は次の表2の通りである。

表2 「夢中度」の評定

評定	段階	幼児の具体的な姿
1	特に低い	・子どもはほとんど何の活動もしない。 ・何かに集中しているように見えない。ボーとしていて、寝起きのような状態。 ・放心したような状態で、活気がない。 ・無目的な活動、行動が見られ、生産的な動きをしていない。 ・探求心や関心が見られない。 ・何かをしようとしれないし、心も動いていないように見える。
2	低い	・子どもはある程度活動しているが、たびたび中断してしまう。 ・少しは集中しているが、活動中に他の方を見たり、ぶらぶらしたり、ボーとしていたりする。 ・簡単に気が散ってしまう。 ・行動が単純な結果しか生まない。
3	中程度	・子どもはいつも忙しそうにしているが、何かに集中しているように見えない。 ・決まり切った行動が多く、活動に表面的な注意しかはっていない。 ・活動に没頭しておらず、活動が短時間で終わってしまう。 ・活動への意欲がそれほど高くなく、熱中することもなく、挑戦的でもない。 ・子どもは、その活動で得られる十分な経験を得られていない。 ・子どもは自分の能力を十分に発揮していない。 ・活動が子どもたちの想像力を刺激していない。
4	高い	・明らかに子どもは活動に参加している様子が見える。しかし、常に構一杯取り組んでいるとは思えない。 ・子どもは絶えず活動に取り組んでいる。 ・活動中、真顔に取り組んでいるが、時々、注意がそれることがある。 ・子どもは挑戦的に活動に取り組んでいて、活動へのモチベーションもある程度高い。 ・子どもの能力や想像力がある程度活動に反映している。
5	特に高い	・観察中、子どもは絶えず活動に取り組んでおり、完全に没頭している。 ・子どもは、活動中、中断することなく、焦点を定めて、集中している。 ・子どもは活動に対して高い意欲を持っており、活動に魅力を感じていて、辛抱強く取り組んでいる。 ・何か強い邪魔が入っても、気を散らすことがない。 ・子どもは注意深く、細部にも注意を払い、几帳面に活動している。 ・精神的な活動も、実際の経験も高いレベルである。 ・子どもは絶えず全力を尽くしている。想像力も精神的な能力も最大限に働かせている。 ・子どもは活動に夢中になることを楽しんでいる。

(3) 「遊びこむ」ことと「思考力の芽生え」の関係について

『幼稚園教育要領解説』において「幼児は、活動に没頭(没入)する中で思考を巡らせる」と述べられ、秋田(前掲)は「遊びこめる子どもが学びこめる子ども、主体的に探求できる力の礎になる」と述べていることから、「思考力の芽生え」と「遊びこむ」こととの関係は対応しているのではないだろうかと考えた。つまり「遊びこむ」

ことが「幼児の思考力の芽生え」につながると考え、「思考力の芽生えが培われる過程」(図1)と「遊びこむ」の過程を対応させると次の図2のようになる。

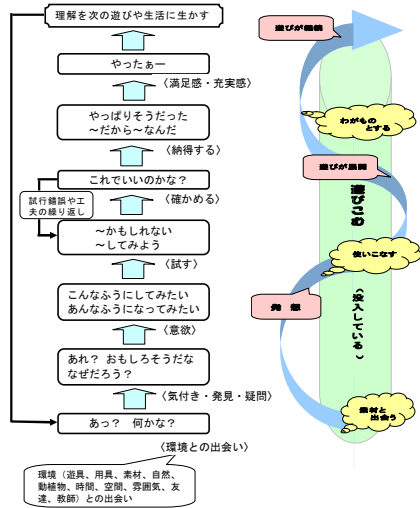


図2 「思考力の芽生え」と「遊びこむ」ことの関係

## 2 検証保育の計画と実施

### (1) 対象学年及び題材名

広島市立A幼稚園4歳児B組(24名)を対象に「様々な素材を用いた製作活動・構成遊び」を題材にして指導計画を作成し、平成24年1月12日～1月20日に保育を実施した。

### (2) 指導計画

様々な素材との出会いを通してその対象とじっくりかかわり、試したり気付いたりしていきといった「思考力の芽生え」が培われる過程が織り込まれるような活動内容を工夫して6日間の保育を行った。指導計画は表3の通りである。

表3 指導計画

期日	活動内容	評価の観点
1/12(木)	・昆虫の絵を描く。	・活動する中で自分なりのイメージがふくらみ、「こうしたい」という意欲や目的をもっている。
1/13(金)	・様々な材料や素材を使って昆虫を作る。	・自分なりのイメージを浮かべ、想像力を活かしている。
1/16(月)	・話し合いの中で、友達の話した絵や作った作品について知る。 ・昆虫を描いたり作ったりする。	・自分のやりたいことを見つけて「～かもしれない」「～してみよう」と自分なりに考えたり試したりしている。 ・友達の話などに触れ、興味や関心をもっている。
1/18(水)	・話し合いの中で、自分が考えたことや友達と一緒に作ったものについて話したり、友達の話を知り、昆虫を描いたり作ったり、遊びに必要なものを作ったりする。	・素材に関心を持ち、自分なりに使うことを楽しんでいる。 ・友達の話などに触れ、興味や関心をもっている。
1/19(木)	・話し合いの中で、自分が作ったものや友達と一緒に作ったものについて話したり、友達の話を知り、昆虫を描いたり作ったり、遊びに必要なものを作ったりする。	・素材の性質や仕組みに気付いて、遊びに取り入れて楽しんでいる。 ・友達の話などに触れ、新たな考えを生み出している。
1/20(金)	・「虫いっばいワールド」で遊ぶ。	・新たな発見をしたり、どうすればもっと面白くなるかを考えたりしている。 ・繰り返して遊ぶ中で、自分なりに納得し充実感や満足感を味わっている。
材 料	○ 絵を描く——色画用紙、クレヨン、絵の具、マジック、コンパス ○ 様々な素材を使って作る——紙粘土、紙粘土(色つき)、花紙、ビニール袋、カラーセロファン、モール、毛糸、木片、ボタン、キョロキョロ目玉、アルミホイル、杖、布、ペットボトルのふた、アイスクリームの棒、プチプチシート、ビー玉、石など	
素 材	○ 「虫いっばいワールド」に必要なもの作り——大黒積み木、カラー積み木、ダンボール、牛乳パック、かまぼこ板、飯、ビールの箱、ティッシュペーパーの箱、カラーボックス、トイレトペーパーの芯、サランラップの芯、新聞紙など	

### (3) 振り返りについて(対象児に焦点を当てて)

「遊びこむ」ということに視点を当てて保育を振り返るときに、「保育プロセスの質」研究プロジェクト(前掲)を参考に、四つの観点である「環境」「主体性の発揮」「教師のかかわり」「友達とのかかわり」を設け、以下の二つの段階でA児の姿を振り返り、思考力の芽生えを培うための教師の援助の在り方を考えることとした。

- 第1段階： A児の姿をエピソードでとらえ、場面ごとに表2で示した「夢中度」を5段階で評定する。
- 第2段階： なぜその値をつけたのか、その理由や根拠について上記した四つの観点から振り返り、次の保育で具体的にできる援助は何かを記入する。

### (4) 「思考力の芽生え」の評価について

「思考力の芽生え」の評価については表1「思考力の芽生えの見取り表」から、保育のねらいや評価の観点をあげ、6日間の観点到に沿った評定値を作成した。分析の結果と考察で取りあげる3日目の観点和評定値は、表4の通りである。

表4 3日目の評価の観点和評定値

評定値	観 点
5	自分のやりたいことを見つけて「～かもしれない」「～してみよう」と自分なりに考えたり試したりしている
4	自分のやりたいことを見つけて「～かもしれない」「～してみよう」と自分なりに考えたり試したりしている
3	自分のやりたいことを見付けているが、自分なりに考えたり試したりしていない
2	自分のやりたいことを見付けようとしている
1	自分のやりたいことを全く見付けられない

## 3 検証保育の分析と考察

### (1) 分析の方法

実践保育をビデオカメラで撮影し、抽出児A児のエピソードを記述した。その際A児の「夢中度」は1日の約45分の保育の中で、変化していることが分かったので、変化している姿を

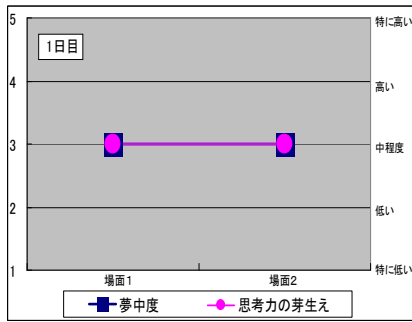


図3 夢中度と思考力の芽生えの評定値（1日目）

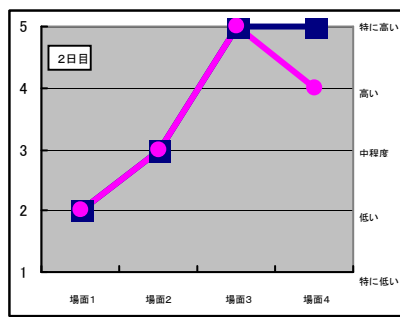


図4 夢中度と思考力の芽生えの評定値（2日目）

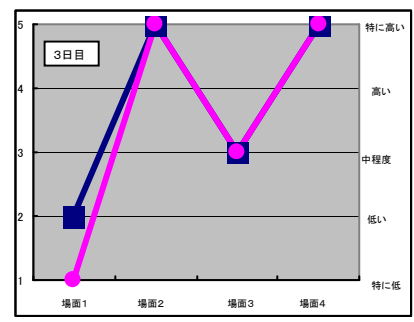


図5 夢中度と思考力の芽生えの評定値（3日目）

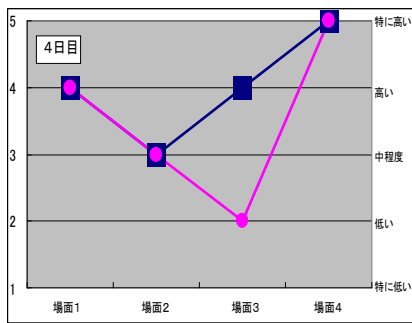


図6 夢中度と思考力の芽生えの評定値（4日目）

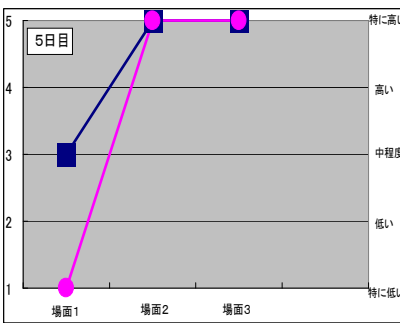


図7 夢中度と思考力の芽生えの評定値（5日目）

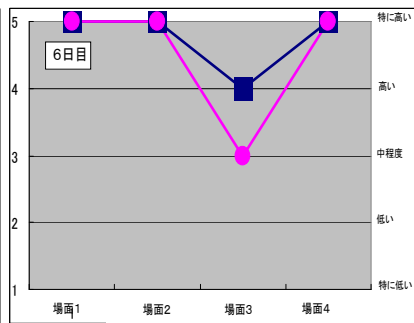
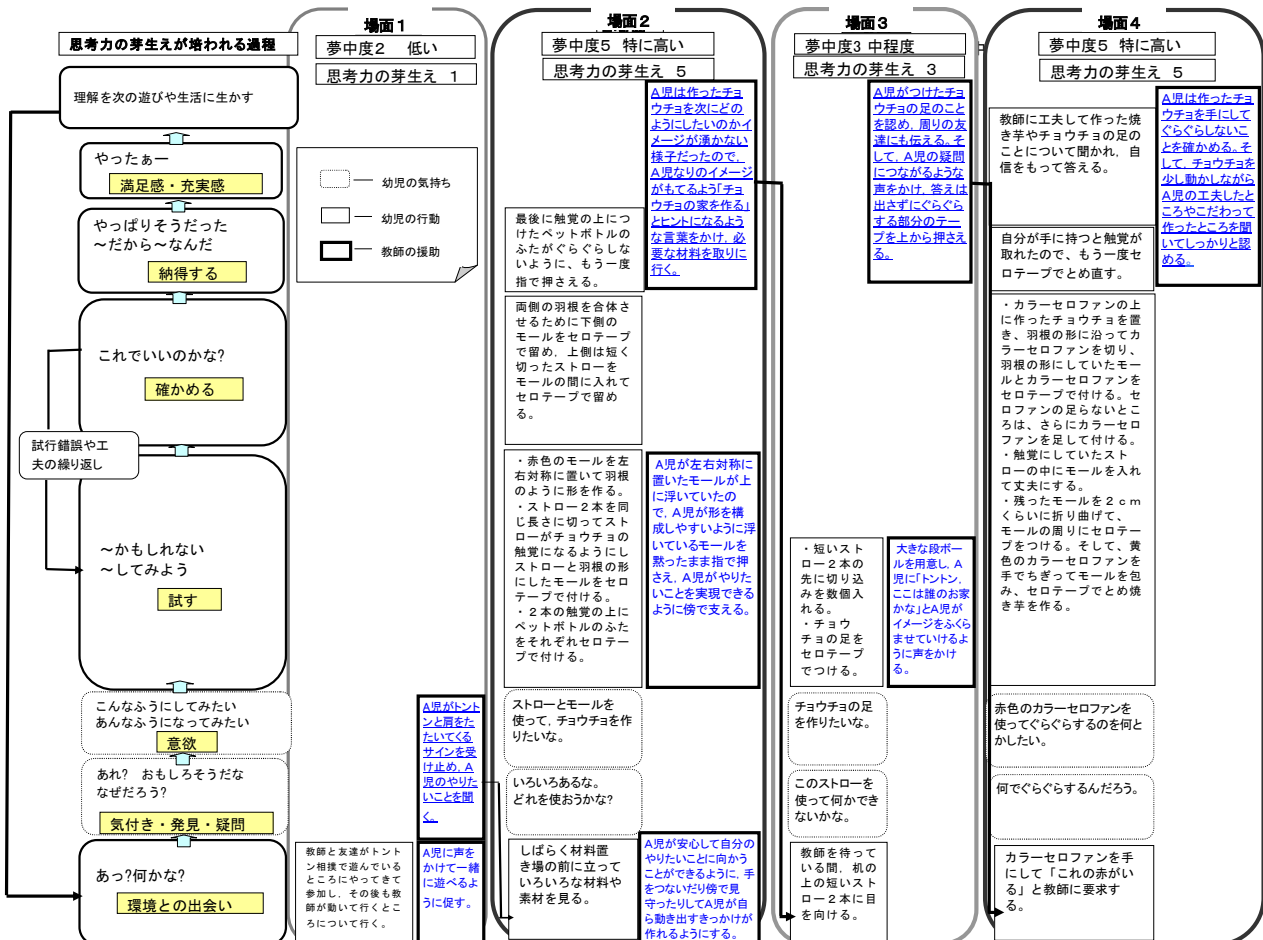


図8 夢中度と思考力の芽生えの評定値（6日目）

表5 「思考力の芽生えが培われる過程」と3日目のA児の姿



ターニングポイントで場面2～場面4に分けて1場面ごとに「夢中度」と「思考力の芽生え」を評定し、分析を行った。

## (2) 分析の結果と考察

### ア 「遊びこむ」ことと「思考力の芽生え」の関係性について

図3～8より、「夢中度」が高いときには「思考力の芽生え」の評定も高く、「夢中度」が低いときには「思考力の芽生え」の評定も低くなっていることが分かる。そして、以下の三つの傾向が見られた。

- (a) 「夢中度」も「思考力の芽生え」も高い
- (b) 「夢中度」も「思考力の芽生え」も低い
- (c) 「夢中度」よりも「思考力の芽生え」が低い

(a)については、表5より「夢中度」も「思考力の芽生え」も高い場面2と場面4のときにはA児の行動が「思考力の芽生えが培われる過程」に沿っていることが分かった。また、2・4・5・6日目も同じ過程に沿っていることが分かった。このことから、A児が遊びこんでいるときには、自ら考えようとする気持ちをしっかりともてているということが考えられる。

(b)については、表5の場面1より、A児は環境と出会っていても心を動かしておらず、A児自身「こんなふうにしてみたい」「あんなふうになってみたい」といった意欲をもつことができていないことが分かった。このことから、遊びこめていないときには心も動いておらず、自ら考えようとする気持ちももてていないということが考えられる。

(c)においては、A児は友達に頼まれて看板の字を書いたり、友達に手を引かれていろいろな場所に移動して遊んだりしている。このように、この場面は友達とのかかわりによって、「夢中度」はある程度高いが、A児自身の「こんなふうにしてみたい」「あんなふうになってみたい」といった意欲がないために、友達の思いや動きに流されて行動していることが分かった。このことから、明

らかに活動に参加し、遊びこんでいても友達の思いや行動に流されて自ら考えようとする気持ちはもてていないということが考えられる。

### イ 教師の援助

表5より、教師はA児の遊びのターニングポイントとなる場面で、次の活動につながるような援助(表5の下線の援助)を行っていることが分かった。また、ターニングポイントとなる場面で行った環境構成や教師の援助は、A児の「夢中度」を上げたり下げたりしている要因となっていることが分かった。

そこで、図5に表5のA児のエピソードと教師の援助を入れ込んだ図9をもとに、教師の援助を具体的に考察することとする。

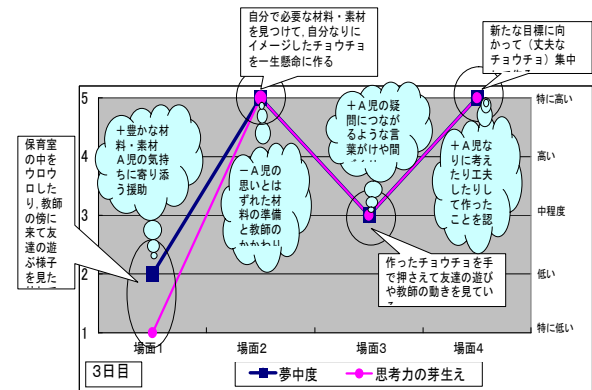


図9 3日目の評定値と教師の援助

場面1から場面2において「夢中度」が上がっている要因として「様々な種類の材料や素材を自由に使えるような場の設定」「A児の思いに寄り添う援助」が挙げられる。

また、場面2から場面3では、「夢中度」が下がっている。教師は、A児が作ったチョウチョを次にどのようにしたいのか、イメージをもっていないと受け止め、A児に次の目的をもたせようとして「チョウチョのお家作る？」とヒントとなるような言葉をかけている。しかし、実際A児はチョウチョを使って遊びたかったのではなく、チョウチョをもっと自分のイメージしたものに近づけたかったというA児の思いが分析より分かり、「A児の思いとはずれた材料の準備や教師のかかわり」が「夢中度」を下げた要因として挙げられる。

そして、場面3から場面4では再び「夢中度」が上がっている。要因としては、A児が自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。

以上のことから、A児が遊びこんでいくためには、環境との出会いを通してA児自身が「意欲」をもち自主的に行動することができるように援助していくことが重要であると考えられる。

#### 4 「思考力の芽生えの見取り表」の再構成

上述したように、6日間の実践保育より「夢中度」を上げたり下げたりした要因について分析・考察していくと、思考力の芽生えを培うためのキーワードとなる教師の援助が明らかになった。また、思考力の芽生えが培われる一つ一つの過程における幼児の実態に応じた援助が必要であることが分かった。そこで、「思考力の芽生えの見取り表」に「教師の援助」を加えて表の再構成を行った。次の表6の通りである。

表6 思考力の芽生えの見取りと教師の援助

思考力の芽生えの見取り	教師の援助	教師の援助
<p><b>「夢中度」</b></p> <p>「夢中度」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>	<p>「夢中度」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>	<p>「夢中度」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>
<p><b>「意欲」</b></p> <p>「意欲」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>	<p>「意欲」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>	<p>「意欲」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>
<p><b>「思考力」</b></p> <p>「思考力」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>	<p>「思考力」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>	<p>「思考力」が高い状態では、幼児は自分の作ったチョウチョに納得していない様子が見られたので、「ぐらぐらするねえ。」とA児の疑問につながるような言葉をかけ、チョウチョをじっと眺めながら間を作るといった「A児の疑問につながるような言葉がけや間作り」が挙げられる。</p>

## V 研究のまとめ

### 1 成果

- 「遊びこむ」ことと「思考力の芽生え」は関係性があるということが分かり、幼児が「遊びこめる」ような援助を行うことが、幼児の思考力の芽生えを培うことにつながることを抽出児の行動から明らかにすることができた。
- 幼児が環境との出会いを通して自ら考えようとする気持ちをはぐくんでいくためには、思考力の芽生えが培われる一つ一つの過程に応じた援助が必要であることが分かり、「思考力の芽生えの見取り表」を再構成することができた。

### 2 課題

- 本研究では、抽出児を対象として分析・考察を行った。今後は一般性という面において、他の幼児においても探っていきたい。
- 「思考力の芽生えの見取り表」においても、今後、検討していく必要がある。

### 引用文献

- 1) 秋田喜代美 『保育の心もち』 ひかりのくに 2009 p.24
- 2) 無藤隆 『保育の学校』 フレーベル館 2011 p.64
- 3) 国立教育政策研究所教育課程研究センター 『幼児期から児童期への教育』 ひかりのくに 2005 p.110
- 4) 秋田喜代美 『保育の心もち』 ひかりのくに 2009 p.24
- 5) 「保育プロセスの質」研究プロジェクト 『子どもの経験から振り返る保育プロセス』 幼児教育映像制作委員会 2010 p.4

### 参考文献

- ① 小田豊・湯川秀樹 『保育内容 環境』 北大路書房 2009





